

「令和5年度 第2回かながわ次世代エネルギーシステム普及推進協議会」議事要旨

1 開催日時・会場

令和5年9月4日（月） 14：30～14：53 オンライン会議（ZOOM）

2 要旨

(1) 挨拶

○ 県（柏木脱炭素戦略本部室長）

- ・ 本日の主要な議題としては、「神奈川の水素ビジョン」の骨子案を協議していただきたい。6月14日の今年度の第1回協議会で、現行の「神奈川の水素社会実現ロードマップ」の改定について協議いただき、改定の方向性について了解をいただいた。
- ・ これまで県の事務局が行った協議会の会員の皆様へのヒアリング、御意見等を踏まえて作ったものだが、自治体としての神奈川県行政計画ではなく、神奈川県域の中で水素の利活用をどのように進めていくのかといったものなので、本県も含めた協議会の皆様で作上げていくものと承知している。皆様の御協力のもと、より良い内容にしていきたいと思うので、協議をよろしくお願い申し上げたい。

(2) 議事

○ 協議会事務局（県脱炭素戦略本部室） 協議会設置要綱の改正について

（資料2-1、2-2）

《協議会設置要綱等の改正について》

- ・ 事務局から「資料2-1」～「資料2-2」に沿って説明し、了承を得た。

○ 協議会事務局（県脱炭素戦略本部室） 「神奈川の水素ビジョン（骨子案）」について

（資料3-1、3-2）

《「神奈川の水素ビジョン（骨子案）」について》

- ・ 協議会事務局から資料3-1に沿って、説明。

（主なコメント）

【内田氏（東海大学）】

- ・ 現在、各国がすごい勢いで水素やアンモニアの利用について動いている。こうした中で、特定の時期、特定の国、特定の地域だけで、目標を設定する、特に数値目標を設定するというのは非常に難しい。お互いにやりとりしている部分が非常に増えてきているのと、国際状況も大きく変わっているので、固定せず、フレキシブルにその時の状況によって、各国は自分に一番利益があるようなやり方で決めていると思うので、日本もそのようにすべきだと思う。例えば神奈川県はこうだから、こうやっていきたいんだということ考えていけばいいと思うので、数値目標については決める必要はないと思う。

【原田氏（東海大学）】

- 各国の動き等を見ると、ここで具体的に数値を定めるというよりは、非常に自在なところで、どういうことを今後やっていったらいいだろうかというところに視点を合わせる事が重要であると思っている。
- 先ほど御説明いただいた時に、炭素の排出量等に集中したいというお話が出たかと思うが、私も同感で、そのようなところも、提言してみたいと思っている。
- もう一つ、これからの県の方針的なところが出てくるように、協議会から発言が出せるようなシステムがあれば、より一層、効果的な協議会になるのではないだろうかと考えている。

【柏木脱炭素戦略本部室長】

- 私から説明を補足させていただくと、今回この水素ビジョンを策定するに当たって、自治体としての神奈川県を取組を示した計画ではなく、神奈川県全域の中でどのように水素を活用していくのか、民間の企業様それから市町村、県も含めて、全体の取組像を分かりやすくお示しするため今回ビジョンという形で示させていただいた。
- 今両先生からお話があった数値目標については、現段階ではその必要性を含めて、設定することが難しいということで、現段階では将来の展望を示すために具体的な数値目標を設定しないとする事については、概ね会員の皆様の御了解をいただいているのかなと思うので、素案に向けては、この方向性でもう1回事務局の方で考えたいと思っている。
- 水素の色分けについては、国の水素基本戦略の中でも低炭素水素という概念があり、一方で、脱炭素社会の実現という中では、やはりグリーン水素という言葉が適当なのかということも含めて、今後議論になるが、移行期については、まずは水素普及を進めることが前提だが、将来像としてはグリーン水素の活用ということも含めて、もう一段、素案に向けて、会員の方々のご意見をいただいた上で、合意が取れるような記載内容に、見直していきたいと考えている。
- 骨子案について、様々な御意見をいただいているので、事務局の方で集約をし、会員の皆様に適宜御意見を伺う機会を作りながら、素案の作成に向けて進めていきたいと思う。

以上